

とっておきの熊野 山村の暮らし体験講座 その二十三

『茶摘み』

～熊野の静かな山里でお茶づくり～

■実施日：平成20年5月15日(木)

■参加者：9名(千葉県3名、津市2名、熊野市周辺4名)

三重県熊野市飛鳥町から五郷町を流れる清流大又川。この清流に沿った集落は“流れ谷”と呼ばれ、周辺は棚田や小川、石垣など、懐かしさを感じさせる原風景が今もなお残っています。



加藤さんの古民家の前には自生した茶の木が広がる

この流れ谷の静かな山あいには、一軒の古民家があります。家の前には谷川が流れ、段田畑が広がり、茶の木

の緑が美しい場所です。ここで毎年自家製のお茶を楽しんでいる加藤さんと、隣の集落飛鳥町で昔ながらの茶づくりをしている竹平さんと茶摘みをしながら楽しい一日を過ごしました。参加者の方は、「家の近くに川があって、私の思い描いている場所だ」「日当たりが良く、太陽が当たって、風を受けて、空気がきれいで、きっとここのお茶はおいしに違いない」と話されている方もおられました。



竹平さんから摘み方を教わる



時間も忘れ、茶摘み

まず、茶摘みのコツを教えていただき、その後各自、茶摘みを始めました。午前中ずっと茶摘みの時間をとりましたが、皆さん飽きることなく、時間を忘れて夢中になって摘んでいたようです。

午後からは自分で摘んだお茶を炒って、揉んで、干す作業を行いました。一人の静岡出身の参加者の方は、香ばしいお茶の匂いを浴びて、「懐かしい、実家の匂いがする」といいながらお茶を炒っていました。



香ばしいお茶の香りが漂う



炒った茶葉を手で十分もむ。40年以上お茶づくりをしている竹平さんは、さすがに上手い。

また炒った後の茶葉の揉み方のコツを教わりながら、みなさん一所懸命揉んで、たくさんのお茶を干しておられました。最後に今日一日摘んだ自分だけのお茶を全て袋に入れ、皆さん満足そうにお帰りになりました。



参加者のお一人が最後にこう語られました。

「暮らしぶりが素敵で、出会った方々も素敵で、いろいろな話をしながらお茶を作って楽しかった。これから、このお茶を飲むたびに、きっと今日のことを思い出すでしょう。」

以上(記録:森倉)